

14 アジアから来た若者たちの孤独 (外国人)

(ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。

5

コンビニや飲食店などでは、アジアの国々からやってきた若者が働く姿をよく目にしますね。でも、彼らがどんな生活をしているのか、知っている人は少ないと思います。今日は、そんな疑問を調査した、ある大学生のお話です。

10

【男子学生】僕は、大学のゼミの一環で、ネパールやベトナムなどからの外国人留学生に、生活に関する街頭アンケートをしました。多くの留学生が、学校とアルバイト先を往復する日々で、「親しい日本人はいない」と回答しました。「寂しい。母国に帰りたい」「日本人の友人が欲しい」とこぼすのです。この言葉を聞いて初めて、彼らの孤独に気付かされました。

15

さらに彼らは、アルバイト先で客から、「ちゃんとした日本語を話せ」とか「日本人と代われ」と責められることもあると嘆くのです。夢や目標を持って福岡に留学したはずなのに、生活費や学費を稼ぐためのアルバイトに追われ、いわれのない非難まで受けていた。これは同世代として、ショックでした。

20

25

（ナレーター）男子学生のアンケートではこのほかに、「バイトをしすぎて体調を崩した」とか「きちんと給料を払ってもらえない」という悲痛な声もありました。留学生は、原則として1週間に28時間を超えてアルバイトすることは法律で禁じられています。実際にはそれを超えて働かされたうえ、その分は「法律違反だから」と支払ってもらえなかったというのです。

35 これは悪質な違法行為ですが、雇い主の中には、彼らをただの「労働力」としてしか見ておらず、長時間労働や低賃金といった人権を無視した劣悪な環境で働かせている人もいるという実態があります。

40 【男子学生】留学生はすぐそばにいるのに、僕は彼らのこととを知らず、知ろうとさえしてきませんでした。このままでは、彼らは日本を嫌いになってしまうのではないのでしょうか。僕に何ができるのか、留学生や友人たちと話し合いながら考えたいと思います。

45 （ナレーター）今後も留学生や外国人労働者の方はますます増えていきます。彼らは私たちの生活を支えている仲間であり、隣人なのです。

50 最近では、お互いの交流を目的としたイベントやサークル活動など、日本の生活に馴染めるようにサポートする動きも生まれています。彼らを孤立させないことが、私たちが共生していく第一歩なのです。